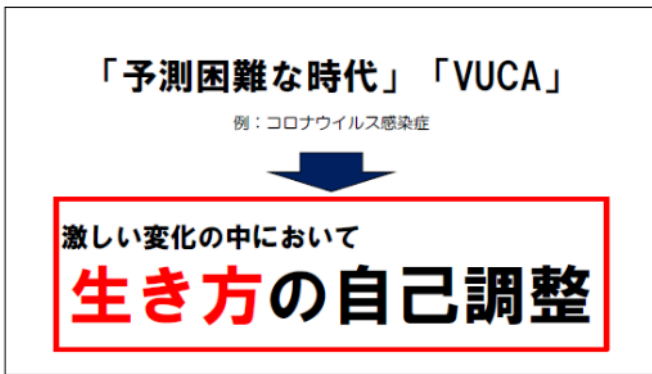
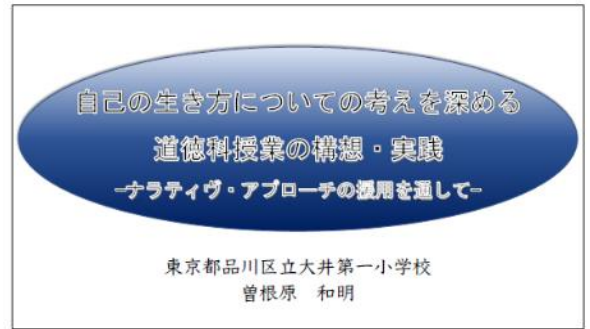


「自己の生き方についての考えを深める道徳科授業の構想・実践」ーナラティブ・アプローチの援用を通してー

東京都品川区立大井第一小学校 曾根原 和明 先生

- 変化の激しい時代に自分はどう生きていくべきか
- 生き方の自己調整が必要である。
- そのための道徳教育の在り方について考える。



「自己の生き方についての考えを深める」とは？

「自己の生き方」を考えるとは、児童一人一人が、よりよくなるように自己を肯定的に受け止めるとともに、他者との関わりや身近な集団の中での自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己について深く見つめることである。

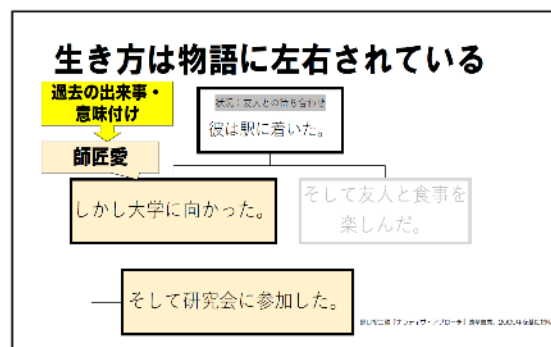
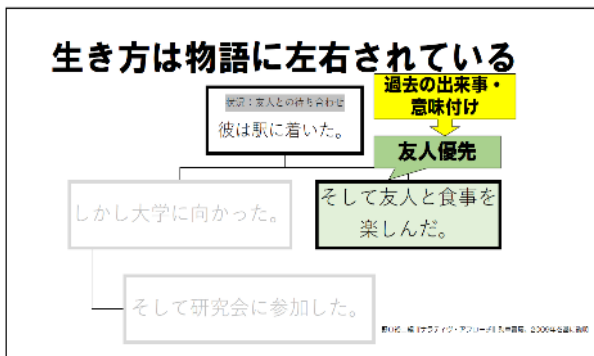
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 編則編」

教材の登場人物に自分自身を重ね合わせるだけでは、「生き方考えること」にはつながらない。
 「何が自分の生き方と関わるのか」を授業の中で考えることが大切である。

○ナラティブ・アプローチの理論の援用

- ・ナラティブとは「語り」「物語」と訳される。
- ・複数の出来事を時間軸上に並べて、順序関係を示すことがナラティブの基本的な特徴といえる。
- 「駅に着いた。 大学に着いた。 研究会に参加した。」→これだけではナラティブではない。
- 「駅に着いた。 そして大学に着いた。 そして研究会に参加した。」

「そして」や「しかし」など、接続詞によって別のストーリーが発生する。
 つまり人間は過去の解釈と未来の予期によって、今意味のある行動をとると考えられる。
 「生き方」はこのように物語に左右されていると考えることができる。



○二つのストーリー

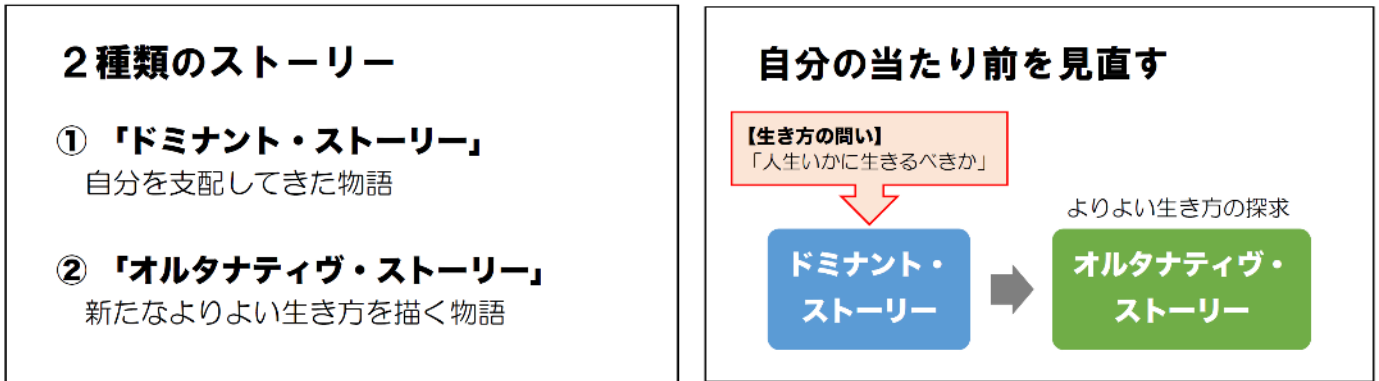
- ①ドミナント・ストーリー …体にしみこんでいる今までの生き方や考え方
- ②オルタナティブ・ストーリー …ドミナント・ストーリーに意味をもたせ「いかに生きるか」という考え方

○ドミナント・ストーリーからオルタナティブ・ストーリーにするために

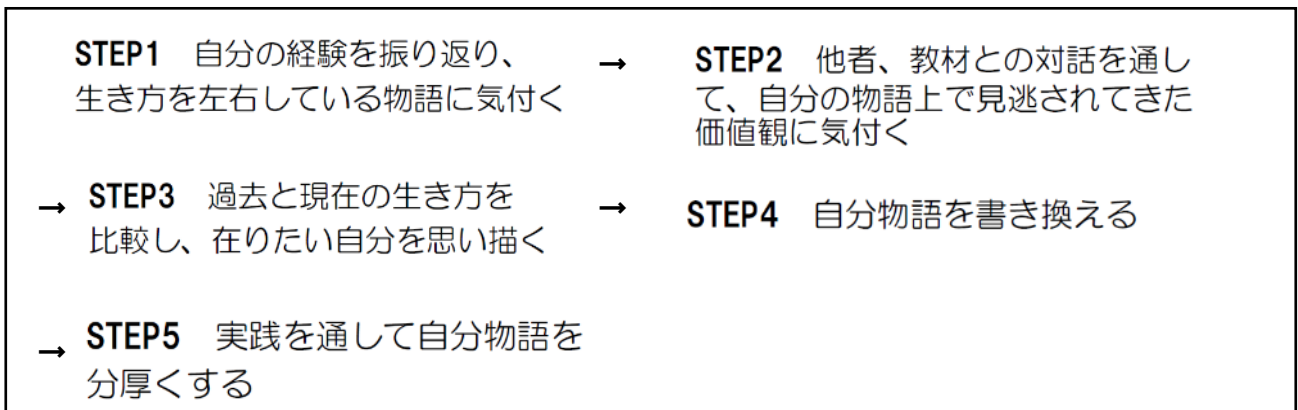
「行為の風景」(行動)と「意識の風景」(意図)

この二つを往還し、ズレ(裂け目)に対話などを通して埋めることでよりよい生き方に気付かせる。

この方法はナラティブセラピーという心理療法でも用いられる。



○オルタナティブ・ストーリーを紡ぐ道徳授業の5つのステップ



○授業実践例

5ステップを使ったナラティブ型の授業と、非ナラティブ型の授業の比較

(実践した二つの教材の比較)

ナラティブ・アプローチにて**生き方**を考える

	実践1 非ナラティブ型	実践2 ナラティブ型
教材	「電池が切れるまで」 <small>(学研教育みらい『新・みんなの道徳5』)</small>	「母とながめた一番星」 <small>(学研教育みらい『新・みんなの道徳5』)</small>
あらすじ	「神経芽細胞腫と闘っていた由貴奈ちゃんは、「命が疲れたと言うまで/せいっぱい生きよう」という詩「命」を書いた。その詩は今も大きな感動の輪を広げている」 <small>永田繁雄他(2020)『新・みんなの道徳5 教師用指導書 指導編』学研教育みらい、p.90</small>	「学校で仲間外れにされ、帰ってすぐに家を飛び出した恵子は、追いかけてきた母から川の土手で空を見ながら、自分がどんなに愛されているのかの話を聞き、勇気をもらった」 <small>永田繁雄他(2020)『新・みんなの道徳5 教師用指導書 指導編』学研教育みらい、p.42</small>

(二つの学習活動について)

表1 非ナラティブ型とナラティブ型の主な学習活動

	非ナラティブ型「電池が切れるまで」	ナラティブ型「母とながめた一番星」
導入	1 学習課題を設定する。 由貴奈ちゃんの死が残したものは、悲しみだけだったのかについて、じっくり考えてみよう。	STEP1 「自分のことを大切にしたい」と思った経験を振り返る。 • どうして「自分のことを大切にしたい」と思ったのかな？ • この経験から分かるあなたが大切にしていることや考えは？
展開	2 「電池が切れるまで」を読んで考え、話し合う。 ① 「電池が切れるまで」をもう一度読み返して、思ったことを書きましょう。その後で、思ったことを伝え合しましょう ② 由貴奈ちゃんは、「命」の詩を山本先生に見せながら、どんなことを考えていたのでしょうか。	STEP2 教材を読み、母の話聞いた恵子は、どのようなことに気付いたのか話し合う。 STEP3 過去と現在の自分の生き方を比較し、在りたい自分を思い描く。 • 話し合いを通して気付いたこれからのあなたが大事にしていきたいことは？ • これまでのあなたは、その大事にしたいことができていたと思いますか？
終末	3 本時の学習を振り返る。 これまでに、命の大切さを感じたことはありますか。これから大切にしたいことは何でしょうか。	STEP4 自分物語を書くことを通して、伸ばしたい自己について深く見つめる。

○振り返り

授業後、児童に4段階の意識調査を行った。

結果1

表2 自己の生き方についての考えに関する二つの授業の意識調査 N=35

質問項目	非ナラティブ型		ナラティブ型		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
1. 自分のこれまでの経験（～したきた、～できなかったなど）を振り返ることができましたか？	3.34	0.71	3.66	0.53	-2.23 *
2. 自分のこれまで大切にしてきた考え（価値観）を振り返ることができましたか？	3.26	0.81	3.51	0.65	-1.66
3. これからの自分の生き方（～していきたいなど）を考えることができましたか？	3.57	0.65	3.71	0.51	-1.00
4. 3.の自分の生き方は具体的に考えられましたか？	2.91	0.73	3.34	0.75	-2.59 *
5. 学習をして授業前にはなかった新しい発見（～が大事だと分かったなど）はありましたか？	3.40	0.76	3.43	0.77	-0.17
6. 5.の「新しい発見」が大事だと思った理由を書くことができましたか？	2.94	0.89	3.29	0.66	-2.09 *

* $p < .05$ ** $p < .01$

質問項目1 → 児童の経験を想起すること

質問項目4 → 自己の生き方を具体的に考えること

質問項目6 → 学習による新たな発見の理由を書くこと

に貢献した可能性

○記述内容の分析

ナラティブ型の授業にすることで振り返りの記述に変容が見られた。

表3 二つの授業の振り返りの出現回数上位10語

非ナラティブ型		ナラティブ型	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
命	49	自分	67
人	42	思う	60
生きる	36	大切	54
思う	37	生きる	52
大切	32	学習	32
自分	24	これから	31
感じる	23	今まで	31
死ぬ	21	人	32
見る	16	命	29
由貴奈	12	今日	29

どちらの授業
→命に関わる自己の生き方についての考えを深めている。

非ナラティブ型
→命の**価値**についての理解を促す。

ナラティブ型
→命に関わる**経験**を時間軸上で組織化し、**意味**づけている。

○実践を通して まとめ

**「オルタナティブ・ストーリー」を紡ぐ
道徳科授業の5STEP**

- ・ 児童の経験を想起する
- ・ 自己の生き方を具体的に考える
- ・ 学習による新たな発見の理由を書く
- ・ 経験を時間軸上で組織化し、意味づける

まとめ

問題意識
自己の生き方についての考えを深める
道徳科授業が十分に実現できていない。

【今の私の考え】
一人一人の子どもが人生の主人公。
仲間と協力し、経験から生き方・考え方のクセを掘り出し、物語を綴り続けられる道徳科授業を

【質疑応答】

Q1 ナラティブ型の授業はどんな教材にもあてはまるものなのか。子どもの記述の数値化はどのように行うのか。

A1 全ての教材でナラティブ型の授業を行うことは難しいと考える。自分の生き方や考え方をワークシートに書くので、毎時間このような授業形態でやると、道徳の授業がつかなくなってしまうことも考えられる。価値そのものを扱う教材などでは非ナラティブ型で行い、自分自身の生き方ふりかえる教材ではナラティブ型で行うなど、教材によって援用を使い分けていくとよい。記述の数値化については、KH Coder というフリーソフトを使っている。

Q2 カウンセリングによるナラティブ・アプローチが応用されているが、カウンセリングの場合は患者が、疾病などでドミナント・ストーリーをオルタナティブ・ストーリーに書き換える何かしらの必然性があることは理解できる。しかし、学校現場の授業でドミナント・ストーリーをオルタナティブ・ストーリーに変えようとする、子どもたちはワークシート書く際に「自分の人生を変えなければ」と思ってしまうのではないか。

A 2 カウンセリングの患者と異なり、学校現場の子どもたちは、友情や規則の尊重などに関して、自分の生活では困っていないというケースもある。問題をもっていない子にも生き方を見つめさせるために、価値葛藤を授業のはじめに取り入れることで、子どもたちが様々な人生の価値に気付けるのではないかと考えている。

Q 3 提案内容は、成人学習等にも通ずる部分があると感じた。未来や将来について考え「働く」ということについて考える授業形態も考えられそうである。その際、学期単位やユニットなど、大きな期間をもうけ、自分でテーマを設定していくのもよいのではないか。

A 3 「大きなまとまりをつくる」という部分は大変共感できる。ただドミナント・ストーリーをオルタナティブ・ストーリーに変えるという流れの中で、子どもたちが「まだ気づいていない」ストーリーに気付くことが大切だと捉えている。そのため自分でテーマをつくってしまうと、そこに固執してしまう可能性があるので、ユニットや学習計画を考える際はその部分に配慮が必要であると感じる。

Q 4 ステップ4の自分物語を書く際、例文や定型文を準備してしまうと、内容が自分の変容を書く流れになるのはある意味当然だと思う。もっとワークシートの定型文を簡略化して示して書かせた方が、ドミナント・ストーリーからオルタナティブ・ストーリーに変わる子どもの本質を捉えやすいのではないか。定型文をより簡略化してみてはどうか。

A 4 今回の提案には、「子どもたちが45分の道徳の授業の中で、一度自分の経験を振り替えられる時間にした」という思いがあった。ICT端末に子どもたちの活動の写真を蓄積させて、時期を決めて振り返るというのも有効なのではないかと考えている。

Q 5 自分の足りない価値観を個で考えていく活動だと感じた。そこからみんなで考えていく際、どのように全体共有をしているのか。

A 5 「協働的な学び」は教材を通して、個別最適な学びは「自己内対話」を通して行っている。非ナラティブ型の学習はみんなで考えを共有したり、よりよい答えを探求したりしていく授業形態だが、今回提案したナラティブ型は自己内対話を大切にしたい学習だと捉えている。

Q 6 「生き方は物語に左右されている」という文言があったが、自分の考えとしては「生き方そのものが物語であり、その作者は子ども自身」ではないか捉えている。物語というキーワードに引っ張られてしまわないかということを感じた。年間35時間の道徳の授業の中で、子どもたちが「物語」を初めて作れるのは後半になるのではないかと感じる。

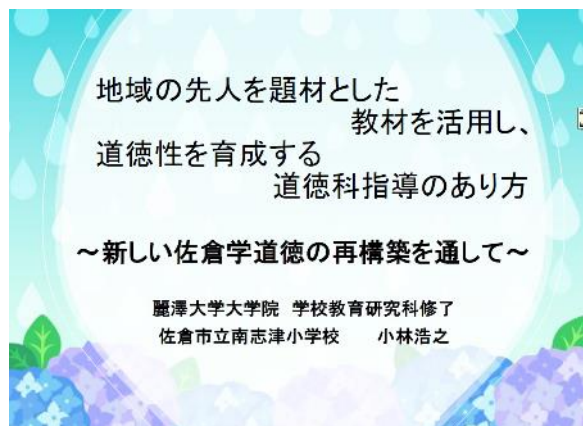
A 6 自分物語を書かせた時に、書けない子もいる。ひとりひとりの中に複数のストーリーがあり、時と場合によって変わっていくものである。おっしゃられるように35時間の授業の最後に紡がれることもあるが、パッケージや、小さいまとまりの中で物語ができることもあるのではないかと考えている。道徳授業で自分物語を書く経験はあまりないかもしれないが、今までの生活経験も関連させていくことで、35時間の途中で物語を紡いでいけるのではないかと考える。

- Q7 「自己の生き方について考える道徳科授業」という研究テーマが興味深かった。自己の生き方は比較することができないが、「人間としての自己の生き方」というものはあると感じている。
- 振り返りで、子どもたちから「自己」「生き方」という言葉がかなりあがっていたが、それは「人間としての自己の生き方」と捉えていた子もいたのではないかと感じた。子どもたちからどんな意見があったか教えてほしい。
- A7 小学校学習指導要領の中の「自己の生き方」、中学校の「人間としての生き方」それぞれで考えていたが「人間としての自己の生き方」という言葉を聞いてとても納得できた。今後も子どもの発言に注目していきたい。
- Q8 ICT端末で子どもが自分の行き方を振り返るという取り組みがとても興味深かった。子どもの変化などがあれば教えていただきたい。
- A8 振り返りの記述には、学校だけでなく、学校外のことや、習い事のことなども書かれている。今後も子どもを見取り長期的に検証していきたい。
- Q9 教材から離れて自分を見つめるということが大切だと感じた。しかし自分物語を書くということは、記述量が必然的に多くなる。低・中学年の場合どのように子どもたちの見取りを行ってくとよいか。
- A9 自分のクラスだから見取れているという部分がある。低学年中学年で45分の授業の中で、振り返りを全て書くのは難しいかもしれない、朝の時間、ホームルームなどの活用をしながら対応している。
- Q10 書くのが難しい低学年であれば演じさせることも一つの手段化かもしれないと感じた。
- A10 演じさせることによって、考えが似てしまうという所の難しさもあり、今後も振り返りをどのようにしていくかは考えていきたいと思う。
- Q11 検証方法について、「自分の事」や「これまでのこと」「これからのこと」と関連しないような授業で、今回見られたようなキーワードが増えたのであれば効果があったと考えられるが、今回のように自分の生き方をふりかえる授業で、この結果が出ることは当然だったのではないかと感じた。検証する際のキーワードを変えていくと、また違った結果が出るかもしれない。各活動は道徳の授業ではなく、総合的な学習の時間や、生活科、社会等の教科の時間にも感想を書かせることで変容を見取ることができるのではないか。
- A11 他のキーワードで検証するという事は、今後試してみようと思う。「今まで」「これから」などの定型文やキーワードを使って書かせることについては、「これらの言葉をつかって自分で物語をまとめること」に意味があったと感じている。ステップ1～5まで教師が準備してしまっている点については、今後改善が必要だと感じている。教材を読むことで学ぶ子もいる、書くことを通して生き方について考える子もいる。子どもたちが生き方を探求する方法は一人ひとり違う。ナラティブを考える初期段階として一つの手立てとして参考にさせていただければと考える。

提案②「地域の先人を題材とした教材を活用し、道徳性を育成する道徳科指導のあり方」

～新しい佐倉学道徳の再構成を通して～

佐倉市立南志津小学校 小林浩之先生



○地域の先人を題材とした教材についての提案

千葉県佐倉市では、平成16年より「佐倉学」(市の地域教材)を授業に取り入れている。

平成19年 道徳の中でも佐倉学の副読本を作成。

小学校で15教材まで作られている。

○佐倉学の道徳の概要

かつては佐倉学教材の平均活用率が30%だった時期もあった。

理由として歴史的背景を理解するのが難しいという点があげられる。

→(改善策)エピソードファイルの開発(事前に教材の背景にあるものを理解する数ページの資料を子どもたちに配付しておく。)

また若手も、ベテランも、どんな教師もシンプルで扱いやすい教材の開発・整理をおこなった。



佐倉学道徳教材一覧(小学校)

	学年	教材名(主題)	内容項目
1	低	津田梅子	努力と強い意志
2	中	堀田正倫	国や郷土を愛する態度
3	中	佐藤泰然	公共の精神
4	高	西村茂樹	希望と勇気
5	高	津田 仙	真理の探究
6	高	浅井 忠	努力と強い意志
7	低	おしえて、カムロちゃん(佐倉のいいところ)	国や郷土を愛する態度
8	低	先崎のケヤキ(だいすき!わたしたちのまち)	国や郷土を愛する態度
9	低	わたしの町さくら(さくらし大すき)	国や郷土を愛する態度
10	中	香川松石(得意なことを生かして)	個性の伸長
11	中	佐倉こどもカルタ(郷土愛)	国や郷土を愛する態度
12	中・高	倉次 享(「佐倉茶」を育てた力)	集団生活の充実
13	高	佐倉の魅力を伝えたい(郷土を見つめ直す)	国や郷土を愛する態度
14	高	新しい農業への挑戦(挑戦する勇気)	希望と勇気
15	高	おじいちゃんのチューリップ(郷土の伝統を守る)	伝統と文化の尊重

○道徳教育の課題とその改善について

価値は分かっているが、なかなか実践に結びつかない。

認知から感情が結びつき、そして実践力、判断力につなげる学びをつくりたい。

感情のゆさぶりをさらに深くしていけば、実際の行動につながっていくのではないかな。

道徳的な価値が素晴らしいのではなく、それを体現している人間が素晴らしいのではないかな。(徳目より人物)

実在の人間の生き方を掘り下げていきたい。

○人物教材の課題

業績は真似できない →先人の生き方には目を向けられる。

生きている時代が違う →この出来事がどのように現在につながって、未来につながっていくかを考える。

このように捉えられれば、人物教材を扱う授業は非常に有効であるといえる。

○検定教科書8社の中に、人物や偉人に関する教材は191つある。

高学年に向かうにつれて多くなる。近年の傾向として現存者を扱う割合が増えている。

現存のスポーツ選手などの材も増えているが、運動神経が優れていることが、道徳性と直結しているとも言いきれない。その意味でも先人をロールモデルにすること有効だと考えられる。

○地域の先人を題材とした教材活用の3つの柱

- (1) ロールモデルとなること
- (2) 今につながること (形として・理念として)
- (3) 実践化につながる

3 地域の先人を題材とした教材活用の柱

(1) ロールモデルとなること ← **驚きと共感**

- ・すべての大人(人格教育)は児童の模範 教師のよりよく生きる姿勢(学習指導要領)
- ・自分の目指すゴールの「見える化」
- ・Well-being 進む方向性 行動特定力

(2) 今につながること ← **驚きと共感と感謝 郷土への想い**

(3) 実践化につながる ← **経験学習理論**など

3 地域の人物教材活用のための3つの柱

(1) ロールモデルとなること **業績× 生き方○ 目標** すごい 驚き まね したい 共感

(2) 今につながること(形として・理念として) **時代が違う× 生き方○** すごい 驚き まね したい 共感

(3) 実践化につながる **経験学習論 D・コルブ**

道徳性の発達につながる 感動

○実際の佐倉学の授業より

佐倉市の道徳で子どもに育ててほしい三つの道徳性

佐倉学がめざすもの

佐倉市には、佐倉の豊かな歴史(人物、歴史、自然、文化)を学ぶ「佐倉学」があります。体験活動を通して「佐倉学」を学ぶことで、歴史学習の意義を高め、郷土に対する誇りや、思いやりのある心を、豊かな創造力と発信力を備え、市民生活の発展を促します。そして、次世代を切り拓き、豊かで活躍できる人材の育成をめざします。

佐倉学

佐倉学を通じて 歴史的な学び

つかぬ 汲めぬ 行動する

めざす児童生徒像

- 郷土を誇りに思い、豊かに生きていく子ども
- 豊かな創造力と発信力を身に付け、社会に貢献する子ども
- 生涯にわたり学び続け、かかわりながら挑戦し続ける子ども

佐倉藩主 堀田正睦公

江戸幕府 老中 藩改革 人材育成

育てたい道徳性とは？

めざす児童生徒像

- 郷土を誇りに思い、豊かに生きていく子ども
- 豊かな創造力と発信力を身に付け、社会に貢献する子ども
- 生涯にわたり学び続け、かかわりながら挑戦し続ける子ども

佐倉藩主 堀田正睦公の理念

郷土愛 成徳作用 積極進取

よりよく生きるために佐倉の児童に身に付けて欲しい道徳性

どの佐倉学道徳教材でも意識する価値 + その人物教材の価値

佐倉藩主 堀田正睦の理念から生まれてきている。

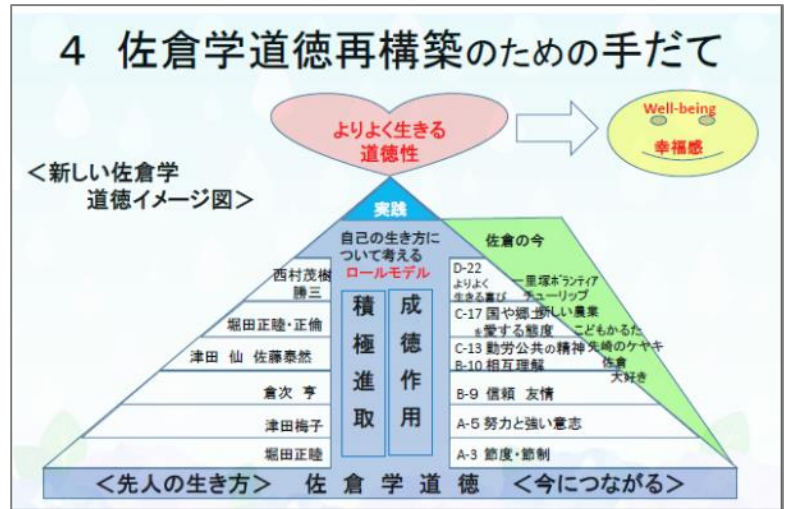
「成徳作用」…世のため人のため 「積極進取」…新しいことへの挑戦

今につながるエピソードも紹介する。

他の教科や総合との関連も図るようにしている。

4 佐倉学道徳再構築のための手だて

- (1) ロールモデルとなるために→育てたい道徳性
 - 堀田正睦の理念 「積極進取」「成徳作用」を柱 『よりよく生きる』佐倉人気質
 - 正睦の理念の継承者を中心に教材構成
佐藤泰然 津田梅子 津田仙 西村勝三 西村茂樹 等
- (2) 今につなげるために
 - 「今」につながる事例やエピソード
- (3) 実践化につなげるために
 - 学びを実践に生かす場の設定→総合単元的構成等



○改善案について

例えば道徳教育を世に広めた西村茂樹の教材は次のように授業を改善した。

以前は西村茂樹が目が悪くした出来事に注目させるような教材だったが、茂樹の生き方に目を向けるように改善した。

日本に道徳教育を広めた西村茂樹の生き方を支えたのは、堀田正睦から受け継いだ「積極進取」「成徳作用」の考えであることに気づき、自分も世のため人のためにできることに取り組もうとする意欲を育てるようにした。

5 改善案

- (1) 1～6年の全体構成案
- (2) 教材(6年西村茂樹)
- (3) 指導案(6年西村茂樹)
- (4) 総合単元的道徳の構想案(6年)
- (5) エピソードファイル(6年西村茂樹)

5 改善案 (1) 1～6年の全体構成案

＜佐倉学道徳科目標＞
・佐倉の先人の生き方について考える活動を通じ、「積極進取」「成徳作用」を中心とした道徳的価値の理解を基に、自己の生き方について考えを深め、よりよく生きる道徳性を養う。

5-1-2 指導計画 (小学校)

学年	先人名	内容項目	「積極進取」「成徳作用」との関連
1	堀田正睦	A-3 節度節制	工夫し節約・文武に励む
2	津田梅子	A-5 努力と強い意志	外国で学ぶ、女子教育
3	倉次 亨	B-9 信頼友情	協力して佐倉茶栽培
4	津田 仙	B-10 相互理解	西洋野菜・日本柿普及
4	佐藤泰然	C-13 勤労公共の精神	西洋医学・順天堂
5	堀田正睦	C-17 国や郷土を愛する態度	佐倉藩改革・人材育成
5	堀田正睦	C-17 国や郷土を愛する態度	農民・武士・子供の為に
6	西村勝三	D-22 よりよく生きる喜び	日本靴の父・世の為
6	西村茂樹	D-22 よりよく生きる喜び	道徳教育普及

○実践結果

よりよく生きるということについて考える子が増えた。自分自身のことより集団について考えることが増えた。しかし実際に行動してみようと思った児童は減っている。このことについては次のような分析をすることができる。

→西村茂樹の前に行った、西村勝三の授業後のアンケート時点で、新しいことに挑戦する児童の割合が、すでに増えていた、また西村茂樹の生き方について深く考えた結果、児童の中で新しいことに挑戦することに対する基準が高くなった点などが考えられる。

6 実践結果

① 授業前・授業直後

〈よりよく生きるために大切なことは何か〉 表1
(アンケートの自由記述から分析)

	分からない	自分のこと	人・集団に関わること
授業前	22%	57% (2%)*1	21% 3%*2
授業後	5%	43% (7%)*1	42% 31%*2

*1…自分に関わることを答えた児童の内、「挑戦すること」と答えた児童
*2…人・集団に関わることを答えた児童の内、「積極進取」と答えた児童

成徳作用 「世のため人のための活動」と答えた児童

→

6 実践結果③

② 授業3か月後の変容

〈授業後よりよく生きるために実践した(予定)こと〉
(自由記述から分析・複数記述有) 表3

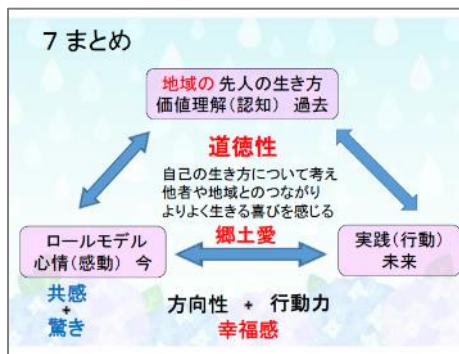
新しいことに挑戦		世のため人のための活動	
実践した	実践予定	実践した	実践予定
71名	87名	44名	65名
49%	60%	30%	45%

積極進取 100%超 **成徳作用 75%**

しかし、授業後三か月に行ったアンケートでは、これらの項目に対する意識が変化していた。このことから、年間を通じて児童に変化があったことが分かる。

○今回のまとめ

認知→感動→実践のプロセスで道徳性、郷土愛を育成することができたと考える。



Q1 先人の生き方を分析して、自分の生き方に取り入れるという取り組みは、とても興味深いと感じた。先人をロールモデルにした場合、自分の生き方と少し離れすぎている場合もある。自分と先人の中間にあるロールモデルと自分の間にある、「身近なロールモデル」の例などはあるか。

A1 業績ではなく、その背景にある生き方に目を向けることを大切に取り組んだ。また「佐倉の今」という教材で、市のボランティアでチューリップを植えている人、子どもたちにカルタを教えている人、新しい農業に取り組んでいる人のなどの話も紹介している。そうすることで子どもたちにとって今の身近なロールモデルを示すようにしている。「先人の教材」と「佐倉の今」の教材を合わせることで、子どもたちがより自分の生き方について考えられるようにしている。

Q2 偉人、先人を扱う場合、「成功者バイアス」が働くのではないかと考えられる。大きな偉業を成し遂げたり、大金持ちになったりした人の発言したことは肯定される傾向がある。そこで自分の都合の良い情報ばかり取り入れてしまうと少し学びに偏りがでるような気がする。偉人の人間らしい部分、不完全な部分も知ることで総合的に取り入れるとよいと思うのだがどうするとよいか。

A2 例えば西村勝三の教材などは、七転び八起きの人生など偉人の失敗したところを紹介して、その立ち直り方を考えるような授業展開にしている。

(参会者感想)

偉人の色々な書籍から、多面的にその人間性を理解し、その人の弱さも知ることで、本当の意味で生き方を知ることにつながるのではと考えている。

(提案者感想)

目指す上ではゴールは高い方がよいという思いで、偉人の教材を扱っている。先人の生き方を学習して「それをやりなさい」ということではなくて、どの授業でも「この人の生き方を君はどう思う？」と問うようにしている。そこで「自分の生き方とは違うな」という子どもの意見も大切にしている。取り入れ方は子どもたちに委ねるようにして選択できるようにしている。

Q3 先人をロールモデルにすること以上に、「生き方の多様性を認められること」を育成したいと感じた。一時間ではなく、何時間かかけないと、先人のやり遂げたことが伝わりにくい部分もあると思う。その点で何か工夫は何かあるのか。

A3 人物の一生を、一時間の授業の中で扱うことはとても難しい。佐倉学というのは、道徳だけではなく、道徳、生活、総合等様々な教科や、地域の社会教育の中でも扱っている。社会や総合の授業で見学をしたり、給食のメニューで、教材で紹介されている野菜を食べたりと、子どもたちが何かしらの体験をしてから、授業をするようにしている。

Q4 「なぜそのような偉業を成し遂げることができたのか」その問いに対して、子ども一人ひとりが違う理由を考えることが大切だと感じた。実践に結び付ける上で、その徳目を扱えばその行動がよくなるとは限らない。人間の行動と内面は全く別の物だと考える。実践がウェルビーイングにどのように結びついていくか、現時点での研究成果などがあれば教えていただきたい。

A4 行動や方向性は OECD の EDUCATION2030 に幸福感を高めるための要素として紹介されている。

Q5 三点質問したい。①先人をロールモデルとして取り上げる理由は「より高い目標の方がよい」という答えだったが、その受け取り方や自我関与の仕方は人それぞれである。先人の偉業に対して「自分にはできない」という方向に向かわないか。②経験学習理論が子どもの実践にどのように繋がるかをもう少し詳しく伺いたい。③最後のアンケートで、学習の3か月にこれからの実践予定を尋ねる内容を質問することで、まだやっていない子どもは「実践予定がある」と回答するため、今回の先人学習との関連がないようにも感じるのだがどのように考えているか。

A5 ①先々の人生の中で今回学んだ事が生きてくるのではないかと考えている。②認知と感情と行動はセットで意味をなし、やはり行動、実践することに結び付けたいと捉えている。③小学校卒業前に実施したアンケートなので、中学校にむけて、在校生や6年間過ごした学校に恩返しをする活動の場を設けたこともあったので結果に反映されていたのではないかと感じている。

(参観者感想)

心情を高めることが行為に結びつくといわれているが、それを検証するのは非常に難しい。しかし道徳の教科化の一つにいじめ問題への対策という視点があることから、これから、検証していかなければいけない部分だと感じている。

(参観者感想)

自分も子どもの頃、地域の先人の教材を学んだことがある。当時は意識していなかったが、大人になってから、自分の出身地の偉人を知っている方と出会った時、とても誇らしい気持ちになった。このように地域教材を勉強することは自分のルーツを確立していく上でもとても必要な学びだと感じた。

(提案者感想)

人物教材を授業で扱うことはそういう側面もあると考える。そもそも佐倉学も自分の郷土に誇りをもってほしいと思う気持ちから始まった。

Q 6 以前子どもが「何か困ったことがあったら自分の心の中の偉人に聞いてみる」というメモを渡したということがあった。人物教材は心の中の自己内対話を活発にするという効果もあるという話もあるのだと感じた。一点質問だがエピソードファイルについて、メリット、デメリットについて教えていただきたい。

A 6 デメリットとして、年表をつくる、確認するだけでも一時間かかってしまうとう部分がある。メリットとしては、道徳の授業において「生き方」や「価値」に焦点を絞った話し合いができることは効果的だと考える。前の週から確認のための学習を毎日10分くらい行うことで、スムーズに授業に入ることができる。エピソードファイルについては、生き方について深く考える高学年には有効であると感じている。

☆どちらの提案も、子どもたちが自信の生き方をふり返り、これからの生き方を考えるための素晴らしい実践だと感じました。お二人の先生ありがとうございました。

.....